浄土宗の教えとは

・仏教の目的

まず始めに浄土宗の教えを伝える前に、仏教とは何を目的としているかということを説明させて頂きます。仏教の目的を一言で言いますと、

「悟りを得て苦の世界から離れる」

ということになります。

では、まず悟りを得るということがどういうことかと言うと、この世界のあり方を知り、苦の世界から離れる方法を考え、行うことが出来て、それを他の方にも伝えられる境地のことをいいます。

では次に苦の世界というのは、一般的にいう「六道（ろくどう）」、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間界、天界の六つの苦のある世界のことを言います。「輪廻転生（りんねてんせい）」と言って亡くなった方は、その世界での行いにより、またどこかの世界に振り分けられ続け、その流れからは出ることが出来ないのです。

ですからお釈迦様は長い年月の修行により悟りを得て、自分だけが苦の世界から助かるのではなく、輪廻から出る方法を色々とお弟子さん達に説法されたのです。その方法の違いによって、今の天台宗や浄土宗、曹洞宗など様々な宗派に分かれているのですが、最終的な目的は同じと言えます

・浄土宗の教え

では、浄土宗ではどのようにこの世界から離れるのかということですが、勿論「念仏（ねんぶつ）」です

何故「念仏」なのかというと、お釈迦様が説かれた『無量寿経』というお経に、法蔵菩薩が阿弥陀仏になった時の事が説かれています。阿弥陀様は佛になるために四十八の誓い「四十八願（しじゅうはちがん）」を立てられました。その中の第十八番目の誓いがこちらです

・「設我得佛（せつがとくぶつ）　十方衆生（じっぽうしゅじょう）　至心信樂（ししんしんぎょう）　欲生我國（よくしょうがこく）　乃至十念（ないしじゅうねん）　若不生者（にゃくふしょうじゃ）
不取正覺（ふしゅしょうがく）　唯除五逆（ゆいじょごぎゃく）　誹謗正法（ひぼうしょうぼう）」

書き下し：設（もし）我（われ）仏（ほとけ）を得（え）たらんに、十方（じっぽう）の衆生（しゅじょう）、至心（ししん）に信楽（しんぎょう）して、我（わ）が国（くに）に生（しょう）ぜんと欲（ほっ）して、乃至十念（ないしじゅうねん）せんに、若（もし）生（しょう）ぜずば、正覚（しょうがく）を取（と）らじ、唯（ただし）五逆（ごぎゃく）と誹謗正法（ひぼうしょうぼう）は除（のぞ）く

和訳：わたしが仏になった時、すべての人々が心から信じて、わたしの国に生れたいと願い、わずか十回でも念仏したときに、もし生れることができないようであれば、わたしは決してさとりを開きません（佛にはなりません）。ただし、五逆の罪を犯したり、仏の教えを謗（そし）るものだけは除かれます。

・このように法蔵菩薩は私の名前を称えたならば、悟ることが楽に出来る極楽に絶対に連れて行ってあげるとの誓いを立て、今は阿弥陀仏となっています。この事から法然上人は誰でも出来る念仏を広められました。浄土宗の僧侶や檀家さん、信徒さんは同じように念仏を唱え、極楽に生れ、修行し、悟りを得て、また自分自身が助ける側になることを目標としているのが浄土宗の教えなのです

※五逆とは父母、阿羅漢を殺す、佛に血を流させる、僧侶の和合を破った人の事を指します